

原水爆禁止2009年  
世界大会・長崎大会  
8月7日～9日

# 平和と安全を核兵器に頼らない 真に平和な世界を実現しよう



「動く分科会」で佐世保米軍基地を調査

広島・長崎への原爆投下から64年。世界はいま、核兵器廃絶への大きな転機を迎えようとしています。

8月7日～9日、長崎県で原水爆禁止2009年世界大会・長崎大会が開催されました。府職労は長崎大会に6名(土木現場支部2名、保健所支部3名、書記局支部1名)を代表派遣しました。

初日は開会式、世界青年のつどいなどが行われました。2日目は「動く分科会」と題して、佐世保米軍基地調査や被爆遺構めぐり、女性のつどいなどが各地で行われました。3日目は、平和祈念式典、閉会式



## 大会参加者の感想

みんなに世界大会に参加してほしい

動く分科会は、被爆遺構・碑めぐりを平和案内人の川、長崎大学医学部、浦上天主堂、永井隆記念館(如己堂)、山里小学校、平和祈念公園等々連れて行っていただきました。

被爆者たちがなかなか体験を語れ



「核兵器のない世界を求め、平和と安全を追求する」と宣言しました。最大の核保有国の首脳が核兵器廃絶と、そのための協力を世界によびかけたことは核兵器廃絶の確かな一歩だと言います。新たな核拡散を防ぐためには、核兵器を廃絶するしかありません。

なかつたこと、米軍が多く残った土地にブルドガーで踏み込み飛行場を作ったこと、明治以来の富国強兵政策との繋がりがよくわかりやすく教えていただきました。

戦争を知らない私たちが行動することが大事。今回原水爆禁止世界大会に初めて参加しました。私が長崎で一番印象強く残ったのは被爆者の方たちの姿でした。自らも被爆し、家族・友人を失い、差別を受けるなどつらい経験をしてなお、平和を守るための訴えを続けています。

あつゝあつゝい 3日間でした。オバマ大統領の「核廃絶へ」発言や直前の被爆者集団訴訟解決合意もあり、「64年目にしてやっと私たちの声が世界に届いた」という被爆者の声とともに感動と希望の広がる歴史的な大会にワクワクで参加しました。

じりじりと熱で焦げるような暑さの中。熱い思いが丸となった「世界青年のつどい」。世界大会の参加者は年齢層が高いたろうと、先入観を持っていただけに面食らってしまった。だが、平和を願う多くの若者たちを見て、未来への希望が感じられ静かな感動がこみ上げてきた。今まで私は、核廃絶なんて願っても祈っても実現なんかもない気が強かった。でも、こんなに同じ思いの人達がいるのなら、力を合わせたらひょっとして奇跡が起るんじゃないかという淡い期待もできるような感じが、嬉しかった。

学校では教えてくれない真実。小学校の修学旅行で広島市の原爆資料館を見学したが、広島と長崎の両方を知ることが出来るのは、思い原水爆世界大会に参加した。戦争や、原爆に対し、学校では教えてもらえない、生々しい真実を知ることが出来た。戦争を早く終わらせるために広島(ウラノ型)・長崎(ブルトニウム型)に原爆を投下したと一部の政治家が言っているが、真実は、開発費に膨大な予算を投入したので性能を確認するための実証実験が必要だった。又、日本が降伏してからだと大義名分がなくなるので降伏直前に原爆を投下した」と聞かされたときは、自己中心的で、単なる殺人行為ではないかと怒りがこみ上げてきました。また、被爆者の体験談の中で、「本当は当時のことは話したくない。地獄のようなあの惨劇を思いだしたくない。しかし、世界のどこかであの惨劇を二度と起こさせないため、私は話すことを決意した。被爆者が生きていくうちに核兵器全廃を実現させよう」との言葉を聞き、学校の友達などに、長崎での体験を話し、平和について意識してもらえようかと思ってきました。

菅 裕隆(土木現場支部) 菅 一頼氏(子息)